

# 市民研 通信

No.06  
2011年1月+2月  
通巻133号

## ●市民研ホームページに掲載中の最新の論文

～すべてどなたでもダウンロードできます

**巻頭言** フードナノテクノロジーの社会的影響を考える報告書  
Babycom で「卵子提供・代理出産を考えるプロジェクト」

**報告** 第4回市民科学談話会「環境の仕事とは？」  
・環境の仕事とは～コンサルティングの仕事からみえるもの～  
石塚隆記  
・「エコ」のビジネスを知る  
瀬野豪志

**連載** 住環境革命のために 第3回 **日米住宅システム制度比較**  
平松朝彦（サステイナブルマンション研究会代表）

**翻訳** **ナノマテリアルの生態系影響**  
小林剛（東京理科大学ナノ粒子健康科学研究センター）

**寄稿** **2010 私のおすすめ3作品**（市民研会員の有志）

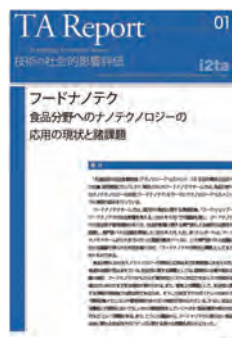
## ●市民研サーチライト

●山崎求博さん（足元から地球温暖化を考える市民ネットエドがわ事務局長）による講演記録「市民がつくるエネルギーのオルタナティブ」(『社会運動』第369～371号(2010年12月～2011年2月、市民セクター政策機構・発行)第1回「日本の電力システムはなぜ生まれたのか」第2回「電力自由化がもたらしたもの～市民が配電会社をたちあげた町、ドイツ・シェーナウ」第3回「エネルギー安定供給という無為無策」で、エネルギー問題の構造と市民の役割を明快に語る。

●DVD『むし歯予防のフッ素利用 専門家の意見<医療編>』『原爆とフッ素 詐欺づくめのフッ素 C. プライソンへのインタビュー<社会編>』(米国のNGO「フッ素毒警告ネットワーク」が2004年に作成したものに、日本フッ素研究会が字幕を付けた日本版) 20世紀の悪行の一つとみなせるだろう水道水フッ素化の背後にあった、驚くべき隠蔽と政治的圧力が語られる。(DVDは頒価500円 日本フッ素研究会まで Fax 0166(74)5416)

●現在、政策論争の大きな争点の一つになっている TPP(環太平洋経済連携協定)。主要マスコミが掲げる“開国論”の是非をじっくり考えてみたい。強い反対の論陣を張る、経済評論家の内橋克人さんの講演(「むき出しの市場原理主義に対抗思潮を」(農業協同組合新聞より))と経済学者の中野剛士さんのインタビュー記事(TPPはトロイの木馬一関税自主権を失った日本は内側から滅びる)がネットで読める。

## フードナノテクノロジーの社会的影響を考える報告書



市民科学研究室は、2007年11月から開始された共同研究「先進技術の社会影響評価(テクノロジーアセスメント、TA)手法の開発と社会への定着」を、TAを実践する対象の一つとして食品分野へのナノテクノロジーの応用を取り上げ、フードナノテクチームを作ってきました(市民研の上田はチームリーダー)。この3月で終了を迎えるにあたり、チームによるTAの実践の成果を『TA Report』としてまとめました。

このチームでは、当初から国内外の動向に関する情報収集を行い、消費者問題に専門的に取り組む団体の方々やナノテクの専門家と交えての「ワークショップ～フードナノテクの社会影響を考える」(2009年9月)を実施しました。そこで議論を通じ、フードナノテクの安全性や管理規制のあり方、社会的影響に関して、さらに広範な専門家(研究開発、行政、企業など)による検討が必要だと認識を深め、専門家パネル会議を2回にわたって開催しました(2010年5月、6月)。この『TA Report』は、これまでに行った調査活動をベースに、この専門家パネル会議における議論で得られた知見を織り交ぜ、フードナノテクの現状と課題をまとめたものです。

食品分野におけるナノテクノロジーの開発と応用は未だ初期段階にあるといえますが、そうであるからこそ、今から様々な社会的影響に目配りして、議論を深め、開かれた検討の場を築いておく必要があります。潜在的なリスクに対応できるリスク評価手法はどう確立できるのか。安全性に関する知見が限られているなかで、情報収集や管理体制はどうあるべきか。消費者にはどのように情報提供すべきか。……

このレポートで、現時点での様々な課題を、広い視野と正確な専門情報に立脚して明らかにすることができたのではないかと思います。

市民研・レイチェル会員の皆様にはレポートの冊子を、ダーウィン会員の皆様には6ページの見本を同封いたしました。全文はi2taのホームページからダウンロードできます。多くの方々にご活用いただければ幸いです。

## Babycom で「卵子提供・代理出産を考えるプロジェクト」



市民科学研究室の「生命操作・未来身体研究会」は、生殖補助医療の現状を把握し、問題点を整理する勉強を続けてきました。そんな中で特に、卵子提供や代理出産に焦点をあてて、当事者の事情をしっかりとふまえた上で、「何を知

っておかねばならないか」「その選択は、あなたに、あなたの子どもに、そして社会に何をもたらすのか」を、わかりやすく伝えることはできないかと考え、その手段として漫画本を出版するのがよいだろうと思い至るようになりました。

卵子提供も代理出産も日本では原則認められていませんから、それらを望む人はたいていそれらを斡旋するエイジェンシーをとおして海外での実施に向かいます。野田聖子議員の例が大きく報道されましたが、では、あなたは日本人で海外での卵子提供を受ける人がどれくらいいるかを知っているでしょうか？

そのような基本的な数字も調査なしには明らかにできないのが現状です。市民科学研究室の代表、babycomの代表、出版社の編集者からなる研究会に、志の高い漫画家を迎え、さらに出産と不妊をテーマにする社会学者に加わってもらい、勉強を重ねながらこの漫画本の制作に取り組んでいる次第です。

この2月に、研究会の活動と大いに関連する、ウェブサイトを使った試みが始まりましたので紹介します。Babycomのサイトにおける「卵子提供・代理出産を考えるプロジェクト」です。体験者、ドナー、カウンセラー等のインタビューを軸にして(近日公開の第1回では、ジャーナリストの大野和基さん、卵子提供エイジェンシー代表の石原理子が取り上げられる)、「資料室」や「図書室」を配して、内外の関連する諸制度を解説したり、参考書籍を紹介したりするものです。このサイトの大きな目玉は、ウェブを訪れる人たちへのアンケートでしょう。さっそく、卵子提供、精子提供、代理出産を経験した方、現在試みていらっしゃる方への「緊急アンケート! あなたの経験を聞かせて下さい」が開始されています。ぜひこのサイトをご覧ください。